



平成28年11月11日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス
(コード番号 5856 東証第2部)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 取締役 萩原 隆一
(TEL. 03-5524-7851)

特別損失等の計上、平成29年3月期第2四半期業績予想と実績との差異、 通期業績予想の修正及び剰余金の配当に関するお知らせ

当社は、平成28年8月25日付「特別損失の計上、平成29年3月期第2四半期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」にて開示いたしました、平成29年3月期通期連結業績予想最近の業績動向等を踏まえ、下記のとおり修正いたしました。また、平成28年9月30日を基準日とする剰余金の配当を行うことについて決議しましたので、お知らせいたします。

記

I. 特別損失益等の計上について

1. 特別損失の計上

個別業績にのみ反映されるもの

- ・当社保有の子会社（㈱東京理化工業所）株式売却損の引当金・・・58百万円

個別及び連結業績に反映されるもの

- ・当社保有の子会社（㈱東京理化工業所）株式売却関連費用・・・51百万円

連結業績にのみ反映されるもの

- ・当社保有の子会社（㈱東京理化工業所）株式売却損の引当金・・・322百万円

2. 営業外収益の計上

個別業績にのみ反映されるもの

- ・子会社（㈱創研）に対する貸倒引当金戻入・・・6百万円

個別及び連結業績に反映されるもの

- ・弁護士費用概算計上の戻入額・・・8百万円

連結業績にのみ反映されるもの

- ・子会社（㈱東京理化工業所）の補助金収入・・・14百万円
- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の転貸不動産賃貸料・・・13百万円

3. 営業外費用の計上

連結業績にのみ反映されるもの

- ・子会社（㈱ウィッツ）の再履修費用等・・・21百万円
- ・子会社（㈱ボン・サンテ）の転貸不動産賃借料・・・12百万円
- ・子会社（㈱ウィッツ）の控除対象外消費税等・・・3百万円

II. 業績予想の修正等について

1. 第2四半期連結業績予想数値と実績値との差異及び通期連結業績予想の修正（金額の単位：百万円）

(1) 平成29年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	8,997	△71	△56	△437	△5円03銭
今回実績 (B)	8,869	△52	△34	△419	△4円81銭
増減額 (B-A)	△127	18	22	18	—
増減率 (%)	△1.4	—	—	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期第2四半期)	9,387	320	360	254	2円92銭

(2) 平成29年3月期通期業績予想数値の修正

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	17,911	412	433	23	0円27銭
今回修正予想 (B)	17,406	326	329	△66	△0円77銭
増減額 (B-A)	△505	△85	△104	△90	—
増減率 (%)	△2.8	△20.7	△24.0	—	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	19,276	654	712	583	6円71銭

2. 第2四半期個別業績予想数値と実績値との差異及び通期個別業績予想の修正（金額の単位：百万円）

(1) 平成29年3月期第2四半期累計期間業績予想数値との差異（平成28年4月1日～平成28年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	四半期 純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想 (A)	429	210	218	50	0円57銭
今回実績 (B)	426	201	219	53	0円61銭
増減額 (B-A)	△3	△9	0	3	—
増減率 (%)	△0.8	△4.6	0.2	6.7	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期第2四半期)	399	162	315	258	2円97銭

(2) 平成29年3月期通期業績予想数値の修正

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	827	391	406	308	3円54銭
今回修正予想 (B)	763	321	347	110	1円27銭
増減額 (B-A)	△63	△69	△59	△197	—
増減率 (%)	△7.6	△17.8	△14.6	△64.1	—
(ご参考) 前期実績 (平成28年3月期)	785	326	508	471	5円42銭

3. 業績修正等の理由

(1) 連結業績について

第2四半期累計期間につきましては、売上高が前回の予想を下回り、営業利益、経常利益及び純利益が前回の予想を上回りました。その理由といたしましては、売上高につきましては、リフォーム事業(194百万円)が増加しましたが、ダイカスト事業(△110百万円)、食品流通事業(△146百万円)などが減少いたしました。営業利益につきましては、ダイカスト事業及び食品流通事業で売上原価の削減、教育関連事業で販売費及び一般管理費の削減などによるものであります。経常利益につきましては、営業利益に対する影響要因とダイカスト事業による営業外収益の計上などによるものであります。純利益につきましては、経常利益に対する影響要因によるものであります。

通期につきましては、売上高、営業利益、経常利益及び純利益が前回の予想を下回りました。その理由といたしましては、売上高につきましては、食品流通事業(△296百万円)、酒類製造事業(△154百万円)及び教育関連事業(△139百万円)によるものであります。営業利益につきましては、売上高に対する影響要因と売上高の減少に伴う売上原価の減少によるものであります。経常利益につきましては、営業利益に対する影響要因と教育関連事業の再履修費用の発生によるものであります。純利益につきましては、経常利益に対する影響要因であります。

(2) 個別業績について

第2四半期累計期間につきましては、売上高及び営業利益が前回の予想を下回り、経常利益及び純利益が前回の予想を上回りました。その理由といたしましては、売上高につきましては子会社からの受取利息の減少によるものであります。営業利益につきましては、売上高に対する影響要因と売上原価の増加によるものであります。経常利益につきましては、営業外収益の計上によるものであります。純利益につきましては、経常利益に対する影響要因と連結納税個別帰属額の修正によるものであります。

通期につきましては、売上高、営業利益、経常利益及び純利益が前回の予想を下回りました。その理由といたしましては、売上高につきましては、経営指導料の減少などによるものであります。営業利益につきましては、売上高に対する影響要因と売上原価の増加によるものであります。経常利益につきましては、営業外収益の計上がありますが営業利益に対する影響要因が上回るためであります。純利益につきましては、経常利益に対する影響要因と特別損失の計上によるものであります。

III. 剰余金の配当について

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成28年8月10日公表)	前期実績 (平成28年3月期)
基準日	平成28年9月30日	平成28年9月30日	平成27年9月30日
1株当たりの配当金	1円00銭	1円00銭	1円50銭
配当金総額	86百万円	—	130百万円
効力発生日	平成28年12月7日	—	平成27年12月8日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

※配当予想は次のとおりとします。

基準日	1株当たり配当金		
	第2四半期末	期末	合計
配当予想		1円00銭	2円00銭
当期実績	1円00銭		
前期実績 (平成 28 年3月期)	1円50銭	1円50銭	3円00銭

(参考) 平成 28 年 8 月 10 日付「営業外損益等の計上、平成 29 年 3 月期第 2 四半期及び通期業績予想の修正並びに配当予想の修正に関するお知らせ」

平成 28 年 8 月 25 日付「特別損失の計上、平成 29 年 3 月期第 2 四半期及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」

以上